

# 令和7年度 クイーンズランド州スカラシップレポート

期間：2025年7月22日～8月6日

赤松 陽葵

## 1. はじめに

私は看護師を目指しています。埼玉県では海外からの移住者が増え、川口市では、外国人在住者の割合は6%を超えています。外国人が増えている埼玉県で看護師になるためには、医療の知識や技術だけでなく、コミュニケーションや異文化の理解を通して患者さんとの信頼関係を築き上げることが大切だと考え、埼玉親善大使としてクイーンズランド州スカラシッププログラムに参加させていただきました。初めての海外で不安もありましたが、多くの方々の支えのおかげで、無事に充実した毎日を過ごすことができました。準備段階からサポートして下さった埼玉県国際課の方々、一緒に留学期間を過ごしたスカラシップ生、現地で優しく接して下さったホストファミリーや学校の皆さんをはじめ、すべての関係者の方々に感謝申し上げます。

本レポートでは、現地での体験や学んだことをまとめさせていただきます。

## 2. Yeppoon について

Yeppoon は、オーストラリアクイーンズランド州にある小さな海沿いの街です。青く透き通った海と自然に囲まれ、都会のようなにぎやかさはなく、落ち着いた雰囲気が広がっていました。

昼間は日差しが強く、半袖で過ごせるほど暖かいのですが、夜や朝方になると一気に気温が下がり、とても寒く感じました。

その寒暖差に少し驚きながらも、次第に慣れていくのも楽しい経験の一つでした。

街は自然に恵まれていて、広がる海の景色を眺めるだけで心が癒されました。また、Yeppoon は街自体が小さいため人々はまるでみんな家族のように仲が良く、温かい空気に包まれていました。出会う人たちはとてもフレンドリーで、留学生の私にも笑顔で声をかけてくれました。人と人との距離の近さが心に残る、

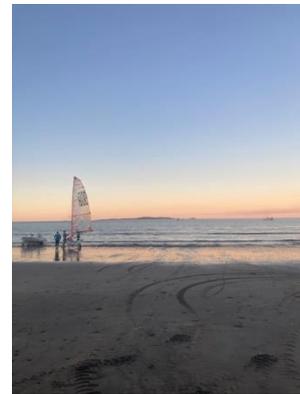


写真1. 青い海

あたたかい街だと感じました。

### 3. Yeppoon 高校での生活

留学期間中、Yeppoon state high school (YSHS) に通学しました。ホームステイ先から徒歩で15分、車で5分の所であり、日によって徒歩で登校したり車で送ってもらったりしました。授業時間は70分の4時間授業で、2時間目の後にAMブレイク、3時間目の後にPMブレイクがありました。毎日変わるバディーの子と一緒に、お昼ごはんを食べたり、スポーツをしたり、折り紙を折ったりするなどし、とても充実した時間を過ごしました。

また、授業スタイルが日本とは大きく違っていました。まず、教科は自分で選択する仕組みになっていて、生徒それぞれが異なる時間割を持っています。そして、日本のように先生が教室に来るのではなく、生徒が自分の受けたい授業ごとに教室を移動して受けるのが基本でした。授業では、みんながとても積極的に発言していることに驚きました。わからないことや伝えたいことがあると、遠慮せずに手を挙げて先生や友達と話しており、とても活発に意見を交換していました。日本とはまた違う「自由さ」と「積極的な学びの姿勢」が体験できて、とても刺激になりました。



写真2. 授業風景



写真3. ランチ

### 4. ホームステイ生活

私のホストファミリーはファザー、マザー、16歳のシスター、14歳のブラザー、10歳のシスター、犬1匹（写真4）でした。最初は緊張してなかなか話せ

なかったのですが、私が理解しやすいように、簡単な英語でゆっくり説明してくれたり、安心できるように気を使って接してくれたりしました。そのおかげで、少しずつ自然に会話ができるようになりました。

放課後には、庭で一緒にサッカーをしたり、10歳のシスターのネットボールの試合の観戦（写真5）に行ったり、アイスを買って海を散歩したり（写真6）など、毎日、私が楽しめるイベントを用意してくれました。そうした時間を通してファミリーとの仲も深まり、とても充実したホームステイ生活を送ることができました。

私からはお礼として、ホストファミリーにそうめんを振舞いました。使い慣れない箸も使いながら、おいしいとみんなが食べてくれました。また、埼玉県の歴史や名所についてもたくさん話し、興味をもって聞いてくれました。週末にはマザー方の親戚の集まりにも参加させてもらい、にぎやかで温かい雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができました。そのとき、マザーが私から聞いた埼玉県のことを親戚の人たちにも紹介してくれて、とても嬉しかったです。

ファミリーのみんなは本当にフレンドリーで温かく迎え入れてくれて、家族の一員のように過ごすことができました。このファミリーに出会えて本当に良かったと心から思いますし、感謝の気持ちでいっぱいです。今回のホームステイは、私にとって一生の思い出になりました。



写真4.ライラ



写真5.ネットボールの試合



写真6.アイス

## 5. 親善大使として

埼玉県の親善大使として、私はファミリーに埼玉県について話すだけでなく、

現地の学校でバディーになった子たちにも感謝を込めて草加せんべいを配り、積極的に埼玉の魅力を紹介するように意識していました。また、一緒に留学プログラムに参加した子が提案してくれた、埼玉県魅力を伝えるイベントを開催しました。YSHSの生徒たちに埼玉の魅力についてスライドを作成して発表したり、福笑い、折り紙や習字などの体験活動を生徒たちと一緒にしたりして、学校の生徒と交流を深めました。

こうして、授業やイベントを通して埼玉県文化や魅力を紹介できたことは、自分にとっても貴重な経験になり、現地の人たちとつながるきっかけにもなりました。



写真7. 埼玉県魅力を伝えている場面

## 6. 終わりに

今回の留学を通して、言語や文化の違いを身をもって体験できたことは、とても貴重な経験でした。最初は不安もありましたが、現地の人々の温かさやフレンドリーさに触れ、多文化の中で安心して交流することの大切さを学びました。この経験を通して、日本に住む外国の方々の気持ちや不安を少し理解できたようにも思います。

私は将来、埼玉県で看護師として働きたいと思っています。そのため、この留学で学んだことや感じたことを活かして、誰に対しても安心して寄り添える看護ができるようになりたいです。今回の留学は私にとって学びと成長の大きなきっかけとなりました。

改めて、このような素敵な留学に関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。